8/14 号外

ワクチン2回 油断禁物

10万人あたり新規感染1.3人

ファイザー製 効果不十分な人も

新型コロナウイルスワクチンの一回目を、国民の約半数が打ち終えた。データが蓄積され、米ファイザー製、米モデルナ製それぞれの特徴が見えてきた。厚生労働省の研究では、モデルナ接種後に発熱した人の割合はファイザー接種後の二～三倍に上ると判明。諸外国より突出して多く、日本特有の現象だ。二回のワクチン接種を完了しても陽性になる「ブレークスルー（突破）感染」の危険性も残る。（沢田千秋）

国民の半数 1回目完了

■病休

「頑強な自衛隊の方でさえ、四割が病休したのはちょっとショック」。ワクチン副反応の調査を担う厚労省研究班の代表、伊藤澄信・順天堂大客員教授は、副反応検討部会で率直にそう述べた。モデルナの調査は自衛官を中心に行った。二回接種後、四割が「仕事にならない状況」だったという。

調査によると、二回接種で三七・五度以上の熱が出たのは、ファイザーが約四割に対し、モデルナは約八割。三八度以上では、ファイザー約二割に対し、モデルナは約六割で三倍の開きがあった。

米疾病対策センター（CDC）のワクチン副反応報告システム「V－safe」に約九十五万人が回答したデータによると、ファイザー、モデルナの二回接種から一週間以内の発熱は、それぞれ21・5％と37・6％で、両ワクチンの間に大差はなかった。

■違い

伊藤氏は「日本人のデータで、これほどの違いが出た原因はわからない。ファイザーとモデルナは有効性の指標にも、それほど違いはないのだが」と首をかしげる。

検討部会では「モデルナの国内治験の結果でも、海外より発熱者が多いとあった。海外ではかなり、解熱剤を前もって飲んでいるとか、体重の違いという意見も審査段階であった」と明かす委員もいた。

モデルナでは、新型コロナに感染したことがある人が、一回接種から副反応が強く出る傾向もある。発熱、倦怠感は、それぞれ未感染者の八倍、三倍に上る。伊藤氏は「三八度以上の発熱の比率も高く、四〇度の人もいる。体に負担がかかるので、準備して接種を」と呼び掛ける。

■突破

ワクチンを二回打ち、副反応を乗り越えても油断は禁物だ。国立感染症研究所は、七月五～十五日の十万人当たりの新規感染者数をワクチン接種歴別に比較。未接種二七・四人に対し、一回接種は九・一人、二回接種は一・三人と激減したが、ゼロではなかった。

横浜市立大の研究では、ファイザー製ワクチンを打った百五人中、二回接種でデルタ株に対する十分な抗体を得た人は百二人。残る三人は十分な効果が得られず、ワクチンが万能でないことを示した。

感染研は六月末までの三カ月間で、ワクチン接種後に感染した二十七都道府県百三十人の検体を回収。うち六十七人は二回打ち、免疫がついたと考えられる二週間たった後に陽性と判明した。感染研は「ワクチン接種後も二次感染のリスクは否定できない」と、感染防止策の継続を求めている。

新型コロナワクチンの副反応比較

ファイザー		モデルナ
19,593人	対象人数	2,491人
41.95歳	平均年齢	40歳
38.1%	発熱（37.5℃以上）	78.4%
21.3%	発熱（38℃以上）	61.9%
89.5%	接種部位の痛み	88.2%
68.9%	倦怠感	83.9%
53.1%	頭痛	67.6%

※2回接種後。厚生労働省研究班の資料を基に作成